

おのおのの検査で得られた T_{max} , $T_{1/2}$, 有効腎血漿流量 (ERPF) および機能画像における T_{max} , $T_{1/2}$ のバラつきの程度の比較を行ったので報告する。

対象は ^{99m}Tc -MAG3 の第三相臨床検査が施行された症例のうち、同時期に ^{123}I -OIH による腎機能検査を施行された 6 症例の 11 腎臓 (水腎症 3 例、腫瘍 1 例、尿路結石 1 例、膀胱尿管逆流現象 1 例) である。

まず検査 30 分前に経口にて 250 ml の水負荷を行い、排尿後、各トレーサを静注し、その後直後から 1 分までは 1 フレームあたり 5 秒収集、その後 16 分まで 1 フレームあたり 60 秒収集で撮像した。RI 投与 44 分後の採血から血中カウントを求め、クリアランスおよび ERPF を算出した。また 1 pixel ごとに T_{max} , $T_{1/2}$ を求め、その機能画像を作成した。以上から得られたデータの検討で以下の結果を得た。

T_{max} , $T_{1/2}$ とも両製剤間に高い相関が認められた。 T_{max} は両製剤ともほぼ同程度の値を示したが、 $T_{1/2}$ は MAG3 で延長する傾向が認められた。

ERPF においても両製剤間に有意な相関関係を認め、MAG3 では OIH の 80% 程度の値を示していた。

T_{max} の機能画像では両製剤間に有意差は認められなかったが、 $T_{1/2}$ の機能画像の全ピクセルの平均値に有意差を認め、MAG3 でその値が延長する傾向にあった。

以上 ^{99m}Tc -MAG3 と ^{123}I -OIH について、 T_{max} , $T_{1/2}$, ERPF および機能画像の比較検討を報告した。

24. 睾丸痛をきたした症例における RI angiography の有用性

日野 恵	伊藤 秀臣	山口 晴司
川井 順一	才木 康彦	石川 昌子
太田 圭子	富永 悅二	池窪 勝治
(神戸市立中央市民病院・核)		
金岡 俊雄	野々村光生	添田 朝樹
松尾 光雄	(同・泌)	

陰嚢の疼痛、腫脹をきたす疾患のうち、精索捻転症を他の疾患から鑑別することは、治療方針の決定上きわめて重要である。特に副睾丸炎とは症状や発症年齢が類似しており、両者の鑑別は困難な場合が少なくない。われわれは陰嚢の疼痛もしくは腫脹をきたし、陰嚢シンチグラフィを施行した 51 例のうち診断の確定した 35 例について検討した。陰嚢シンチグラフィは $^{99m}\text{TcO}_4^-$ 555

MBq を静脈内にボーラス投与後、2 sec/F にて 32 枚の Dynamic image を撮影し、直後および 15~20 分後に Static image を撮影した。対象は血流障害では精索捻転症 5 例、精索捻転症 (整復後) 5 例、睾丸垂捻転 2 例の計 12 例 (年齢 8~44 歳)、炎症では副睾丸炎 11 例、陰嚢水腫に副睾丸炎を合併したもの 2 例の計 13 例 (年齢 5~77 歳)、その他 10 例であった。精索捻転症 5 例における Static image では全例に欠損像が認められ、5 例中 2 例では睾丸の欠損周囲にドーナツ状の高集積が認められた。整復後の症例では患側への血流回復が明らかであり、5 例中 2 例では健側に比べて患側での軽度の集積上昇が認められた。睾丸垂捻転症の 2 例では明らかな異常は認められなかった。副睾丸炎では 13 例中 11 例で Dynamic image における高集積が認められ、Static image では全例で患側の高集積が認められた。陰嚢水腫を合併した 2 例では水腫部の低集積を伴っていた。シンチグラフィの所見からは精索捻転症と副睾丸炎との鑑別は比較的容易であった。画像上精索捻転症との鑑別を要する疾患として、陰嚢水腫、陰嚢腫瘍、血腫、停留睾丸、睾丸萎縮などがみられた。

25. 陰嚢シンチにおける精索静脈瘤の血液プール量の評価

田中 豊	平田みどり	北垣 一
山路 滋	山崎 克人	井上 善夫
河野 通雄	(神戸大・放)	
浜田 俊彦	(小野市民病院・放)	
松本 修	守殿 貞男	(神戸大・泌)

精索静脈瘤の診断における陰嚢シンチの有用性はすでに認められているが、静脈瘤の血液プール量に関しては検討されていない。今回われわれは 1 回採血を加えることにより静脈瘤の血液プール量の測定を行ったので報告する。臨床的に精索静脈瘤が認められた患者 68 例に対し 740 MBq の ^{99m}Tc -HSA-DTPA をボーラス静注し、直後より 4 秒 1 フレームで 64 フレームの動態画像を撮像後、5 分後から静態画像を撮像した。撮像中もしくは直後に患者より採取した血液を静態画像と同条件で撮像し単位体積当たりのカウント数を求めた。静態画像より集積部と陰嚢部に ROI を設定し静脈瘤の血液プール量を算出した。

血液プール量と静脈瘤の ROI (面積) は、プール量の